

「イクメンシンポジウム～協働子育てを自然なことに～」アンケート

日時	2010/11/22(月) 14:00～16:40
場所	熊本大学 工学部百周年記念館
内容	講演会「イクメン行政官の育休体験記」 文部科学省科学技術政策研究所企画課長 牧 慎一郎氏
参加者数	174人
アンケート提出者	68人
回収率	39%

1. あなたのプロフィールを教えてください。

区分(本学教職員・学生 21、一般の方 43、未回答 4)

性別(男性 14、女性 52、無回答 2) 年代(20代 6、30代 19、40代 33、50代 7、60代 2、70代 1)

2. 講演内容は有意義でしたか？また、どのような点が有意義でしたか？

【有意義と感じた点】

(20代)

- ・ 育休をとった男性の率直な感想を聞くことが出来た。
- ・ 男性で育休を取られた方の実体験を初めて聞くことができたので、育休を取るためにはどう行動すべきかがわかった。
- ・ 育休を取得するメリットとデメリットの両方について聞くことが出来て良かった。
- ・ 育児休業取得率は低いですが、どのようにすれば円滑に育児休業が取得できるのか。
- ・ 趣味の動物園めぐり、鬼門の料理、家事のことなどを実体験をまじえて話していただいたこと。

(30代)

- ・ 実際の育休を取得時の根回し、実際に育児に携わった体験、そのような形で取得するとうまくいかなど非常にわかりやすかった。
- ・ 我が家は自営業なので、一般論としてお話をうかがいました。
- ・ 育休をとった男性に会ったことがなかったので、貴重なお話でした。
- ・ 育休はどのように取るのかと思っていましたが、母親が仕事で忙しい時にリリーフとして取るスタイルもあるのだと知ることができました。そういった形であれば、休みも取りやすいと感じました。
- ・ 育児休暇取得に対する男性(夫側)の視点で考えることができた。
- ・ 女性研究者が世界の中から見ると、日本では少ない!! 現状の問題を知りました。
- ・ 実際、育休を取得された体験談を聞いたこと。
- ・ 私は専業主婦ですが、育休を取った方は育児の楽しさや育児の大変さもわかるので、とても良いこと(体験)だと感じました。色々工夫されて、素晴らしいです。
- ・ 男性でも実際に育児休暇を取り、色々な経験談を聞き、同席していた主人に良い刺激になったのでは…と思います。
- ・ 妻が専業主婦でも夫が育児休業を取得できることを知りました。
- ・ 楽しく聞くことが出来ました。
- ・ 育休取得までの根回し(人事担当者への一年半前からの意思表示)が参考になった。
- ・ 男性の育児について具体的に知ることができた点。
- ・ 子どもと深く関わる時間を育休という形で取れば、父親との絆も深まっていいと思います。母親の気持ちを少しでも理解できる良い機会だと思います。
- ・ 育休を取るということをとて自然に行っていってらっしゃる所がとても新鮮でした。このような方が増えてくると良いと思います。
- ・ 実際に育児休暇を取得された男性の話を書いたことがなかったので、リアルな体験談を聞かせていただいて良かったと思います。
- ・ 短期間の育休なら職場でも受け入れてもらえそうで、子供との関係も良く浸透していくと思う。

(40代)

- ・ 育児は女性だけではなく、男女すべきことということを広められた点は良かったのでは。
- ・ 男性が育児に積極的に参加することで、家族の絆が深まっていくことを感じました。

- ・ 14歳の息子に、本日聞いた話を具体的にすることが出来る。
- ・ 夫は仕事、私は家事と育児という昔ながらの生活していますが、男性も家事・育児・地域とのコミュニケーションという生活が可能なのだとわかりました。お互いの立場をわかり、思いやりを持って過ごすことは大切だと思います。
- ・ イクメンの講演を初めて聴きました。
- ・ 3ヶ月間育休を取るのには良い考えだと思う。
- ・ 写真が多く、とてもわかりやすい面白い講演だった。男性の育休取得は家族のためのみならず、その男性の人生のプラスになっている点に気づいた。
- ・ 核家族が多い中、女親一人だけの育児はかなりストレスのかかるもの。主人に手伝ってもらうことは必要だと思いました。
- ・ 実際に育休を取られたお父様のお話を聞くことが出来て良かった。
- ・ 育休を取られた男性(イクメン)のお話を初めてお聞きしたこと。父親も子どもと同世代の子どもを相手にすることで、自分の子どもの成長の比較や共感が得られるということに、なるほどと思いました。
- ・ 育児を満喫し、達成感のあるお話で、成功例として気持ちよく聞くことが出来ました。
- ・ 主婦の立場から見ると、とてもありがたく思います。また、父親としても子どもと向き合う時間があつたことは、これからの親子関係にも大変メリットのあることではないでしょうか。育休を取れる職場環境は必要だと思います。
- ・ 実際に育休を取られた男性のお話を直に聞いたのは、とても有意義でした。
- ・ 育休を取るにあたり、男性の方がどのように苦勞(努力)されて取られるのか分かりました。育児の苦勞・喜びを男性にも分かってもらえたと言うことが分かり、よかった。
- ・ 家事だけでなく、お子さんを連れて外へ出かけられる様子を見て私達女性も育休中の男性を受け入れられる環境作り(サークルや学校で)も必要と感じました。
- ・ 育児を楽しんでされていて、これから育休を取られる男性にとっては励みになったのではないかと思います。
- ・ たくさんの男性が育休を取り、世の中を変えていけたらよいですね。
- ・ 仕事に関しては個人で色々違いがあるが(職種や職場環境等)、経験談を話していただいたことで利点が分かりやすかったと思う。
- ・ 実際の生活の話が聞いてよかったです。
- ・ 男性の視点で育児参加の良さをアピールできたこと。
- ・ 育休を取る重要性がわかった。
- ・ 男性の育児休暇は存在すると分かっているにもかかわらず実際に体験した方のお話を聞くことによって、より身近に感じることができる。

(50代)

- ・ 男性も育児に参加して楽しめるんだなと思いました。
- ・ 具体的な育休のお話が聞けたこと。
- ・ こういう講演会でありがちな「文科省〇〇局長」というような肩書きによる人選ではない点がよくだったので、今回は演者のキャラクターによる部分が多いと思われるが…数年前の同種のシンポジウムでIBMのVIPの講演も◎だった。
- ・ 男性の立場からの育児の大変さが感じられた。
- ・ 育児を行うのは両性の役割である、という当然のことを大学として確認していただいたこと。

(60代)

- ・ 男性の講師、育休を取られた実践が話され、それが普通になれる予感を感じました。
- ・ 具体的な体験を通じた話であったので、いろいろな環境下にある若い人たちの参考になると思った。

3. 本日の講演を通して、男女共同参画を推進していく上で、重要と感じたことや、やるべきだと感じたことを挙げてください。

(20代)

- ・ 育休を取りやすい環境を整えること。
- ・ 職場の環境を整え、男女関係なく育休をとりやすくする。
- ・ 社会全体へ、男性の育休への理解を呼びかける。
- ・ 準備・周知、前もって根回しておくことで、育休を取得しやすくなる。

- ・ 各職場での理解

(30代)

- ・ 環境の整備(特に保育園など)
- ・ 風土の改善(男性の育休の浸透)
- ・ 制度(各職場にあった)
- ・ 6ポケットという言葉がありますが、ディスカッションにも祖父母の方もおいでの様子で少し驚きました。おじいちゃん・おばあちゃんも子育てに参加したいというお気持ちがあり、手を出しづらい状況が「6ポケット」現象となって現れているのかなと感じました。
- ・ 男性でも育休をとりやすい環境づくりを力を入れてやっていって欲しいです。
- ・ 会社や社会人への働きかけ。
- ・ まずは取りやすい環境や雰囲気作りが大切だと感じました。
- ・ 実際に育休をとる事例が増えていくこと。普通だと思える我々の認知。ショートリリーフ型育休はとても良いと思います。
- ・ 男性が育休を取得することに職場の理解がなければ取得者は増えないと思います。男性も女性も同じように育休をとれる環境整備、意識を浸透させることが必要だと思います。
- ・ 企業(職場)の理解が一番大切だと感じました。あとは、本人の意思や意識が大切。
- ・ 女性として妻として、主人にもっと育児に参加してもらうように促すこと。育児を一緒に楽しめるように2人で協力し合う事。
- ・ 小さな子供がいる男性にこのような講演を聴く機会が与えられるとよいと思います。
- ・ 時間外の会議はやめるべきだと感じた。(保育園等の迎えがいる男性もかなりいるのではないだろうか。)
- ・ 男性が育休をとれるような環境づくりが重要であると感じた。
- ・ 今回のような実体験をまじえた講演はいいと思います。
- ・ 男性が育児に関わることが自然である世の中になってほしいと思います。男性の体験談をこのようなシンポジウムで多くの人に伝えていくことも重要だと思います。
- ・ 短期間でも、男性が育児休業を取得できるような制度づくりが必要だと思います。例えば、数週間でも育児休業取得を義務化するような形があっても良いと思います。
- ・ なぜ、公務員の育児休業手当金が共済から出る?大学職員は?
- ・ 女性は、子供を産み育て、仕事から離れる時期があり、夫が育児に参加してくれるのならば、産む数など又社会復帰などの可能性も増えるかなと思う。

(40代)

- ・イクメンをしなければならない環境にあることが、問題。核家庭中心の社会構造に問題がある。対処療法では意味がない。
- ・ 育休をとる上では、やはり上司。管理職の理解がないと…
- ・ 男親が休める環境作り、会社トップの意識。
- ・ 民間の中小企業にもっと働きかけて欲しい。ショートリリーフ的な育休をやるべきである。やはり、法律をもう少し具体的にとりやすい環境にしていく内容にしていくべきである。
- ・ 今回、育休をお取りになった男性方は職場周囲への気配りと根回しを行った上で権利であるお休みを期間限定で取得していらっしゃると思いますが、育児で一番問題なのは、突然どうしても休まなければならない(子どもの病気など)事態へ、どの様に職場の協力と理解を求めて、また自分の職場への後ろめたさをどのように割り切るかだと思います。3ヶ月のまとまった休みより、とびとびで必要なときに休める1年に1ヶ月のお休みの方がずっと女性の社会進出を助けると思います。夫婦で突然の職場への迷惑を半分ずつ分担して欲しい。これまでは女性の方が休み、申し訳なさに退職に追い込まれるケースが多くあったと思います。
- ・ 職場の認知度を上げる。
- ・ 未就学児の保育状況を明確にする。病児保育園をもっとつくるなど。
- ・ 中学生に是非、本講演を聞かせたいです。
- ・ 現在は共働きの夫婦が非常に多くなってきているので、どちらか一方だけに負担がかかり過ぎないように行政からのサポートも必要ですし、それぞれの立場での理解も必要だと思います。
- ・ 都心部と地方では認識に開きがあるだろうが、少しでも女性が理解ある男性により社会に貢献できればと思う。
- ・ 男性の育休取得
- ・ 職場の上司・同僚の理解と協力
- ・ 地域の理解と協力

- ・ 我が家では、昭和の考えの主人で、子育ては女性の仕事だという概念である為、全く目からうろこの話であった。少子化の問題でもあり、子どもは国の宝であり、女性も働きやすい制度を作っていたいただきたいので、将来の国を背負う人間形成においても夫婦でしっかり子育てをしていくことは大切だと思います。
- ・ 育児休暇という制度にとられることなく、八幡先生が言われているように、9から17時でサービス残業をなくして、家庭全体で子どもを育てられる地域の行事に参加できるような制度作りが必要だと思った。
- ・ 自分も含め、このような講演をお聞きすることや参加することで意識を高める必要がある。
- ・ 夫の意識が第一だと思いますが、会社や上司の理解が必要だと思います。
- ・ 育休中の手当では、どこから出ますか？これが個人事業である場合、育休中の人事補充・手当で資金など考えると社会全体に広めていくには難しい面やいろんな問題も多いのではないのでしょうか。
- ・ 経済・景気の回復
- ・ 毎日の生活の中で、少しずつ参加していくことが長期休暇を取るより大切ではないのでしょうか。また、医療に従事している方たちは、イクメンは不可能ではないですか。同じ大学医学部の職員の方は、イクメンになれるのでしょうか。様々なハードルがあるのでクリアされる事は…
- ・ 一番取りやすいのはショートステイ型、というお話でしたが、短い期間でもまとまっているのはやはりまだまだ取りにくい状況だと思います。子どもが小さいうちに限らず、小学生になっても父親の協力は必要なときがあるので、気軽に休み(丸一日でなくても半日とか数時間とか)が取れるようなシステムができないのかな…と思いました。
- ・ 男性が育休を取りやすい環境を作ること(周りや職場が)。それから父親も母親もどうしても休みが取れない時(育休ではなく、仕事に復帰してから)のフォロー態勢を考えなければならないと思いました。
- ・ 企業、職場のトップ、上司の理解が必要。←このような講演を聴いていただきたいなと思いました。また、育休を取るだけでなく、一日の中で一週間の中で、育児に関わることが大切だと思います。
- ・ 職場によって育休を取りやすいところや取りにくいところがあると思うので、国全体で取り組んで職場の体制を見直していかないといけないと思う。夫婦での家事の分担、家庭での役割分担が必要。
- ・ 男性が育休をとることのできる、またとりやすい環境づくりが大切だと感じた。
- ・ 周りの人の理解が必要だと思いました。子育てをする本人も当然ですが、職場の同僚や上司などにも協働子育てを受け入れる環境を作ることが重要だと思います。また、仕事の取り組み方を根本から考えることが必要だと思います。
- ・ 本人の育休の取りやすさも大切ですが、取らせてやりやすい職場環境を作るために、国から職場へのフォローが欲しい。公務員ベースでは良くても、普通の中小企業ではフォローが大変です。
- ・ 建前だけでなく、社会が男性(女性もちろん)の育休をよしとするように、変化することが重要と感じました。公務員の牧さんでも大変そうでしたので。
- ・ やはり協力していく姿を見せていかなければいけないと思いました。
- ・ 男性が育児に参加することが重要。
- ・ 育休を取得することは、男女問わず特別なことではないと受け入れること。(自身も周囲も)
- ・ 職場の協力
- ・ 自分の意思を強く持って、大多数の意見が違っていても信じたことを貫くことは大切。

(50代)

- ・ あらゆる業種・社会で育休を取れる様にはなかなかむずかしいが、いい。
- ・ この手の「改革」というような「新たな取り組み」については、既成概念や文化・慣習の打破が不可欠。その為には、原動力として「ヨソ者・ワカ者・バカ者」の活用がポイント。何をやるにしても、出るくいを打つ、あるいは抜くのではなく、育てることが課題。
- ・ 男性の育児のためには回りの協力が不可欠と感じた。
- ・ 社会全体の働き方を変えなければ、父親の育児休暇を含めて男・女・両性での子育ては難しいとシンポジウムを通して感じました。

(60代)

- ・ 男性職員の方達が普通に育児にかかわっているが、育休まで取る人はいないので、これからは大学の中にも育休を取る男性が増加することの環境を整備すべきである。
- ・ 上司が育休を取りやすい雰囲気をつくるべきだ。

4. パネルディスカッションは有意義でしたか？また、どのような点が有意義でしたか？

(とても有意義 29、ある程度有意義 18、あまり有意義でない 3、有意義だと感じなかった 0、未回答 18)

【有意義と感じた点】

(20代)

- ・ いろんな職種で育児に関わってきた人たちの話を聞いたこと。
- ・ 男性の視点だけでなく、女性が配偶者の育児参加のために必要と感じることを聞くことが出来た。
- ・ 講演では、育休においてどちらかという楽しい面を知ることが出来たが、パネルディスカッションでは、育児の大変さを知ることができた。
- ・ 育休を取得した男性の本音に近いと思われる意見が聞いたこと。

(30代)

- ・ 育休のネガティブ部分もわかる。なぜ、男性が嫌がる場所もあるかなど…
- ・ 管理者が実際どのように考えているか(ネガティブな部分)
- ・ 子育てとは夫婦だけの問題でなく、地域・家族・職場の総合力がアップして豊かに行われると感じました。
- ・ 男性でも育児の大変さを感じ、ノイローゼ気味になるのだなと思いました。2人の子供、共に育児に取り組むことの大事さを痛感しました。
- ・ 生の声をきけてよかったです。もっとサポートできる環境があれば良いと思います。(休む間の人件サポート)
- ・ 三人の先生のお話、ケースケースにより違いますが、育休取得の状況がわかりました。八幡先生のお話の中で、これからの育児に「お互いの持っている時間や資源をどこに配分していくのが最も適しているか相談しながら育児を共有していく」意識をしていきたいと思いました。
- ・ 育児の大変さを実感したというパネラーの方のお話がよかったです。育児は楽しいだけでなく、どれだけ大変かと実感するということが、イクメンの増える意義だと思えます。そこから思いやりなどが育ってくるのだと思えます。
- ・ 六年も前に育休を取得された話、すごい!と思いました。どれも貴重なお話でしたが、会自体をもう少しテーマに沿ってまとめていただいた方が良かったように思いました。
- ・ それぞれの育児体験の話を楽しく聞きながら、自分の今の子育ての苦労や子供が小さかった頃の辛い経験を思い出しました。“イクメン”さんも同じ想いで子育てされていたのを聞き、安心しました。
- ・ 実際に育休をとられた男性方のお話を伺って知らないことも多く、ためになりました。
- ・ 牧さん以外の村上氏、大路氏、八幡先生(夫)の体験が聞いて非常に良かった。
- ・ 子育ての大変さについて男性の視点からの感想が聞いたのが良かった。
- ・ 育休をとって良かった点悪かった点が聞いてよかったですと思います。休暇は休みではないと感じました。
- ・ 子育てに積極的になった(細切れな時間をみつけては育児に関わるようになった)という大路さんのような方が増えて欲しいと思います。子育てのきつき(夜泣きなど)を体験すると、意識が変わるのだなと思いました。
- ・ いろいろな育児体験を聞かせていただいて興味深かったです。育児の大変さ、つらさを男性に感じてもらえることで、主体的に育児ができる男性がこれからは増えていくのではないかと思います。
- ・ 周りに実際に育休をとった男性がいなくて、生の声が聞かれ良かった。

(40代)

- ・ いろいろな体験が聞いて有意義であった。
- ・ できれば、ロングの休暇の体験談を聞ければ。
- ・ 何かを取れば、何かを捨てざるを得ないこともあるのでは…良いとこ取りは…。
- ・ パネラーの皆さんの体験談も聞くことが出来て、楽しく過ごさせていただきました。
- ・ 熊大においてイクメンを増やすにはどうしたらいいのかというテーマ。企業側・学校側の体制作りが先決。上司の理解が不可欠。特に熊本は封建的思考の持ち主が多いので、意識改革がまず始めにありきだと思った。
- ・ 熊日の方の育休体験が特に心に残った。仕事の代わりはいても親の代わりはいないと言われた上司は素晴らしいと思う。
- ・ 育休は楽しいことばかりではないという実態もわかった。
- ・ 様々な立場で働く方の意見、話を聞くことが出来てよかったです。専業主婦で子育てに全ての時間を費やせたことをありがたく思いました。
- ・ 周りの理解、サポートがないとできないことなので、当事者ばかりでなく、みんなで意識を変えていかなければと思いました。

- ・ 男性も女性も育児にかかわると悩みは同じなのだと共感しました。
- ・ 実際に休暇を取られた生の声を聞くことが出来、育児をする者の理解者が男性の中にいることを嬉しく思いました。
- ・ 村上氏の話の中で、育児の大変さ・家族のあたたかさ・育休をとるにあたっての周りの人の支えなど、広い視野で見られるようになったことが、イクメンされての一番もメリットではないでしょうか。育休をとるのも大変なこと。会社の中でどうなるのか？太路氏の一言、こういう上司が増えることを望みます。
- ・ 育休を取ってポジティブネガティブ両方の素直なご意見が聞けたのはよかったです。育児は大変だし、つらいこともあるけれど、喜びもあるということを広めていけたら、また世の中が変わるのではないかと思います。
- ・ 共働きの育児の苦勞など、聞けました。周りの方からどういうサポートをしてあげられるかということを考えて、出来る事はしてあげたいと思います。
- ・ 良かった点だけではなく、大変な面を知ることも重要。一人の面倒を見ると兄弟一緒ではまた大変さも違う。
- ・ 男性(お父さん)の意識が変わることは家族にとってもプラスだと思います。
- ・ 育休をとられた正直な本音を語っていただくととても面白かったです。職場で初めて育休を取られたのはとても勇気ある行動だと思います。
- ・ イクメンのポジティブな点とネガティブな点を聞いてよかった。ただ、ネガティブな面はどちらかといえば子育ての大変さだったのだが、仕事の上でのネガティブな面がなかったか教えてほしかったです。
- ・ 村上さんのお子さんの病気の話もよくわかります。太路さんの育児の姿は母親の育児の姿に似ていて、共感をえました。
- ・ 職場の話が聞いてよかったです。
- ・ 育児の大変さの認識、男性の参加など、今後の課題も浮かび上がったと思います。
- ・ 子育てのつらさを実感
- ・ 同じ期間育児休暇を取られても、子どもの年齢などでとても違う経験になるのだなと思いました。

(50代)

- ・ 各パネラーは各職場のフロンティアであり、変わり者だと思う。そのフロンティア精神をどうやって職場に広げるのか、その際のネックは何かを掘り下げてよかったですのでは？

(60代)

- ・ パネリストの全員が言っているように、仕事場で経験を生かした成果が上がる。育児の中で料理に苦勞されているが、食材名とレシピをグーグルに入れてなんとかなるというのは、すばらしい。
- ・ 相互に議論がうまくかみ合っていて、司会の進行もよかった。

5. 熊本大学教職員の方にお尋ねします。熊本大学が平成 19 年 3 月 26 日に策定した「熊本大学男女共同参画推進基本計画」をご存じでしたか？また、計画内容で、第一に推進したいところを挙げてください。

(知っていた、知らなかった)

【第一に推進したい内容】

(20代)

- ・ 就労と家庭生活の両立支援
- ・

(30代)

- ・ 就労・就学と家庭生活との両立支援(2)
- ・ 男性が育休取得できる環境づくり
- ・ 育休中の代替措置を必ず保障する。
- ・ 学内保育施設の充実(黒髪にもあれば良いと思います)
- ・ 教員と職員の区別なく、機会均等

(40代)

- ・ 産休からの代替要員の措置
- ・ 介護休暇の代替要員の措置

(50代)

- ・「計画」を進めることより、ぶれたり、後戻りしない為、あるいはいつでもリセットできる「灯台」としての「目標」を明確にすべき、「手段」である各種の取り組みやそれをまとめた「計画」にとらわれすぎではないか？
- ・内容についてはあまり把握していない。

6. 熊本大学教職員の方にお尋ねします。どのような施策があれば、本学の男女共同参画がより推進されると 思いますか？

(20代)

- ・ 職員の意識改革
- ・ 現場レベルでのサポート体制の充実
- ・ 育休・産休の取得で想定される不利益の改善(給与面の処遇、キャリアパス)

(30代)

- ・ 家庭との両立支援の充実
- ・ 育休について言えば、男性育児休暇取得について強制力をつけるなど。
- ・ 黒髪地区にも学内保育施設があれば良いと思います。職場に保育施設があれば、体調が悪いときに昼休みにのぞいたり、迎えにすぐ行けたりしますし、子どもにも自分の職場を見せることが出来て良い影響があると思います。
- ・ フレックスタイム制の導入
- ・ パート職員の有休を増やす

(40代)

- ・ 全体的な話ではなく、部分的な対応でよいと思う。
- ・ それぞれの環境を理解し、他人を思いやること。
- ・ 昨年うえの子の担任をしていただいた高校の男性の先生に二人目の子どもさんが一昨年生まれ、奥さまも高校の先生で産休を取られていました。今年の4月からは奥様に替わり担任の先生が産休を取りたかったそうですが、異動があったので、先に延ばされたそうです。そういう考えをお持ちの男性がいらっしゃるというのは良いことです。是非、熊大から推進して早く広まるとよいと思います。今子どもがいる男性だけでなく、これから父親になる男子学生さん達にも話を聞いて欲しい。またその生徒達を教える先生方にもそういう姿を男子生徒さん達に人生の先輩としてたくさん見せていただきたいと思いました。
- ・ やはり積極的になんでも参加していくことが大切だと思いました。
- ・ イクメンを増やすようにしたい!!事例を増やすことが大切。
- ・ 今は思いつきません。とにかく、育休を取りやすくしてほしい。

(50代)

- ・ 「長」のつく管理職には、トップダウンで「目標」を繰り返し浸透(洗脳)させるべき、各「長」の意識がバラバラだと「脳(=トップ)」の命令に反して手・足が勝手に動くことと同じ。
- ・ 教員については時間外労働という対応がなく(裁量労働制のため)、研究・教育は時間の制限はなく続きます。家庭人としての時間を確保できるスケジュールづくりが可能な働き方について、一緒に考えて欲しい。

7. その他、ご意見ご感想がありましたらお書きください。

(20代)

- ・ イクメンを増やしていくためにも、現実の対象となる若い世代よりもむしろ、管理職の方々を対象としたセミナー・講演等の機会をもっと増やしてはどうでしょうか？

(30代)

- ・ 休日にシンポジウムがあれば、もっと多くの男性にも参加が出来て良かったのではないかと思います。
- ・ 三人の女の子がいます。今日は子どもたちの将来に役立てる為、興味深く聞くことができました。10年後、20年後の育児がよりよいものになるよう祈っています。今出来ることは一人一人のケースをつみ重ねる既成事実だと思います。
- ・ イクメンが増えることはもちろん賛成ですが、附小の副校長先生がおっしゃっていたことと重なりますが、それ以上に中小企業にはきびしく、女性ですら育休が取れないというのが現状だと思います。しかしその企業が悪いのでもなく、その企業自体がいつつぶれるかわからないというような現状もあると思います。ただ、

そうばかりも言っていられないので、熊大のような大企業には是非すすめていただきたいと思います。

- ・ 育休を取得するにあたっての準備や、育休中に仕事が気になるのは男性も女性も同じだと思います。
- ・ 今後自分が子育てに係る上でとても参考になりました。ありがとうございました。
- ・ まず、取れないと思わず、私自身の考えを大きく変える必要があると思います。

(40代)

- ・ パネルディスカッションにもっと参加があればと思いました。もったいないですね。
- ・ ここの職員ではないが、一地場の会社役員として聞かせていただきました。まず大学でしっかりイクメンを浸透させていただければ地域の方々の理解も得られるようになるだろうと他力本願的な思いを持つに至った。
- ・ 子どもの月齢とかでも男性の手のかけやすい時期かけにくい時期があるので、生後すぐの男性育児は避け、せめて10ヶ月以降くらいの育休をすすめられたら良いと感じました。
- ・ 保育園に入園前は家庭で能率的にできることを夫婦で話し合ったことを思い出しました。
- ・ 主人は外で働き、私はしっかり家庭を守る!イクメン反対派だったのですが、能力のある女性、仕事を持つ女性にとっては、夫の協力なしでは子育ては出来ないことを理解しました。少子化の歯止めとなる男女共同参画の事業にも目を向けて視野を広げなければならないと思いました。時代にあった施策が必要となるのだなーと思いました。
- ・ 附属中の保護者です。残念ながら子育ての時期はほぼ終わりです。今回のようなお話をこの後イクメンになってほしい若い男性や学生にも聞いて欲しいと思いました。
- ・ 若い男性が参加したほうが良いシンポジウムかと思っていました。しかし、女性もイクメンに対する理解、周知する必要があると思いました。
- ・ 働く母親のために、父親の育児参加を考えるものだと思いますが、祖父母の参加も考えの中に入れてはどうでしょうか。孫のお世話をしたいがさせてもらえないという話も聞きます。
- ・ まずは熊大からイクメンを広めて世の中全体に広まっていくことを期待します。
- ・ 男女共同参画を一般社会に広めていくには、社会のシステムや国の援助など、また育児の重要性をもっともっと広めて遠い将来、イクメンが当たり前のシステムになればいいと思います。
- ・ 附属学校副校長先生のお話のように、大学の中でも難しい現実があるように、一般企業もむずかしい現実があります。
- ・ パネルディスカッションの時間がもう少しだけ長ければよかったと思いました。前もって質問事項のようなものがあつたらよいのではないのでしょうか。父親が育児をするのは、全世界共通だと思うのに、日本はとても遅れているなという気がします。コーディネーターも言われたように、お休みの日とかに子育て中の親世代ではなく、親世代の上司に当たる世代でも是非話を聞いて欲しいと切に願います。
- ・ 私は専業主婦で、結婚と同時に仕事を辞めて21年経ちました。子どもは3人ですが、主人は子供が小さいときはできるだけ早く帰って来てくれて、夜は手伝ってくれていたと思います。教員をしていますが、やはり早く帰ってきてくれるととても助かりました。でも、職場や役職、部活動などで帰宅時間・土日も休みがなかったりということがあり、担任をしているとなかなか休みも取りにくいようです。学校に行事等もほとんど参加できません。やはり国全体で取り組まなければいけない問題だと思います。
- ・ 母親だけでなく、父親も子育てに参加することを男性が自発的に考えてもらえるといいと思います。できれば奥さんの仕事の都合でしかたなく…というのではなく、男性も子育てを味わうことができる権利として育休を取れるような世の中になって欲しいと思います。
- ・ 今日はこのフォーラムに参加できてよかったです。
- ・ 最後に太路さんから、社会全体のパフォーマンスという考え方はとても良いと感じた。
- ・ 育児が終了したり、育児経験のない男性職員の意識改革が必要。退場時間を守って、自分のスケジュール管理を徹底すべき。人件費削減につながり、育児時間がとりやすい環境となる。その分、当事者の努力も必要。権利を主張するだけでは理解は得られない。

(50代)

- ・ 家庭人としての”育児“ですが、介護も同様です。一生の働き方の問題です。

(60代)

- ・ 学長の最後の話のように明るく勇気を持って推進してください。

ご協力ありがとうございました